

21 「表現の自由」と「傷つける言葉」

1 主 題 生命の尊重

2 主題・教材について

「日本国憲法」第21条においては、「集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する。」と明示されている。しかし、いかに表現の自由が保障されていようとも、ヘイトスピーチのような、他者を傷つけたり、差別・排除につながったりする表現は絶対に許されるものではない。なぜなら、そうした表現は、時として、人の命さえ奪うことにもなりかねないからである。

現代社会においては、「死」すなわち命が失われる場面を体験することが少なくなっている。生徒の中には、ゲーム等のバーチャルな世界で、命が簡単に失われ、そして、その命がいとも簡単に復活するという現実ではあり得ない経験をしている者も少なくない。そのような中で、本当は一つしかないかけがえのない命の重みが薄れてしまっているのではないだろうか。

社会においては、いじめ問題が跡を絶たず、命が失われてしまう事象も起き続けてしまっている。そんな今だからこそ、命の大切さにしっかりと向き合い、他者とのかかわりの中で、自身の発する言葉に責任を持つ態度を養うことが求められる。

この教材では、日頃自身が何気なく発している言葉が他者にはどのように受け止められているかをふり返る。その活動を通して、言葉のもつ重みに気づくとともに、命の尊さに対する考えを深めさせたい。また、命を大切にす言動をとろうとする態度と人を傷つける言葉づかいに抗う技能へとつなげていきたい。

- ### 3 ねらい
- ・自分の周りの一人一人を命をもった存在として大切にできる。
 - ・人を傷つける言葉の原因と与える影響について考え、表現の自由の限度を理解する。
 - ・人を傷つける言葉づかいに抗う技能を身に付ける。

4 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導 入	4つの場面を見て意見を交換しよう。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループになり、4つの場面から思い出される自身の体験について意見を交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス集団の現実（実際にこのような状況におかれ、苦しんでいる生徒の実態など）を十分に把握し、そうした生徒にとってより苦痛を強いることのないように配慮する。 	
展 開	アクティビティ「傷つける言葉」をしよう。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティ「傷つける言葉」(《資料》参照)・活動Aを行う。 ・アクティビティ「傷つける言葉」(《資料》参照)・活動Bを行う。 <p>※本文にある場面などを活用し、「傷つける言葉」のロールプレイを行い、言われた人、見ていた人など、それぞれの立場でその言葉に対応する方法を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの権利条約」において、子どもは18才未満と定義づけられていることを確認しておく。 ・苦痛か否かは、言った人ではなく、言われた人が決めるものだということを実に押さえる。 <p>※言葉を言った人、言われた人、見ていた人のそれぞれの感想を交流することから、最善の方法を考えさせる。</p>	資料 付箋紙 尺度表 ワークシート
ま と め	学習をふり返ろう。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティ「傷つける言葉」(《資料》参照)・活動Cを行う。 		ふり返りシート

◆ねらい

- ・人を傷つける言葉の原因と与える影響について考える。
- ・表現の自由の限度を理解する。
- ・人を傷つける言葉づかいに抗う技能を身に付ける。

◆準備物

- ・「子どもの権利条約」第13条を書き込んだ模造紙
- ・付箋紙（1人10枚程度）
- ・模造紙とマーカー
- ・尺度表
- ・ワークシート
- ・ふり返しシート

◆参考資料：公益財団法人 人権教育啓発推進センター

『コンパシート【羅針盤】子どもを対象とする人権教育総合マニュアル』

進め方

1 活動A

- ① 子どもの権利条約第13条を黒板に書き出すか、それを記入した用紙を黒板に貼る。

第13条（表現の自由）

子どもは、自由な方法でいろいろな情報や考えを伝える権利、知る権利をもっています。
ただし、ほかの人に迷惑をかけてはなりません。

注：ここでは子ども向けにやさしい言葉に訳したものを示している。

- ② 「『子どもの権利条約』では、『子どもには表現の自由という権利がある』としているが、他の人の権利を侵害する表現は制限している。」ことを説明する。その上で、次のような質問をして、表現の自由について話し合わせる。
- a 「自分が言いたいことは、いつでも言うことができるのは当然だと言えるでしょうか。」
 - b 「どのような言葉づかいが、他の人の権利を侵害すると思いますか。」
 - c 「どのような言葉づかいが、他の人の心を傷つけるとと思いますか。」
- ※ このアクティビティは、上記のような質問について考えることがねらいであることを説明する。
- ③ 大きめの付箋紙を1人10枚程配布し、自分が聞いたり、互いに言い合ったりしている悪口や人を傷つけるような言葉を、1枚の付箋紙に1つずつ書き込むよう指示する。
- ※ 付箋紙には太めのサインペン等で書かせる。
- ④ 各自が書き込んだ言葉が自分にとってどのようなものかを考えた上で、尺度表の当てはまると思う欄にその付箋紙を貼るよう指示する。
- ※ 尺度表を黒板に貼る。または、黒板に書いてもよい。

※ 子どもたちは人を傷つけるような言葉について論議することは日常的にはまだまだ少ないと思われる。①～④のステップで、人を傷つけるような言葉を口にするのは、あくまで「論議」のためであり、日常でそのような言葉を使うことは許されないということを、子どもたちに徹底しておく必要がある。ただし、子どもたちの自由な議論を妨げることにならないよう、このことは子どもたちの意見が出し尽くされた後に示すことが望ましい。

※ ある言葉を使うことが許されるかどうかを、子どもたちが考えるステップ（活動B③～⑥）以外のところでは、人を傷つけるような言葉は声に出さず、付箋紙に書いた文字だけにとどめておくという工夫も有効と考えられる。

⑤ 全員で尺度表を黙ったままじっくり見て考えさせる。

【尺度表】

苦痛にならない (からかい/ふざけ)	少し苦痛を与える	苦痛を与える	大きな苦痛を 与える	極めて大きな 苦痛を与える

(朱書き部分は、書き加えたところです。)

2 活動B

① 次のような質問をして、尺度表を見て考えたことを発表させる。

- a 「同じ言葉でも、傷つける言葉ではないと思う人もいれば、ひどい言葉だとか心を傷つける言葉だと思う人がいるのは、なぜだと思いますか。」
- b 「同じ言葉でも、どのような言い方をされるか、または、誰によって言われるか、ということによって与える苦痛が変わることはあるでしょうか。」
- c 「人々はなぜこのような言葉を使うのでしょうか。」

※ このアクティビティの中心となる学習のポイントは、同じ言葉でも、全く異なる印象を与える可能性があるということである。すなわち、一つの言葉を冗談だとみなす子どももいれば、非常に心を傷つける言葉であると感じる子どももいるのである。他の子どもたちが、ある言葉を当たり障りのない言葉だと考えていることにより、感性豊かな子どもが傷つけられることがないように、話し合いの流れに注意を払う必要がある。

また、「苦痛にならない（からかい/ふざけ）」とされた言葉であっても、繰り返し発することにより、「極めて大きな苦痛を与える」ことにもなり得ることに迫る必要がある。

② グループ（4～6人程度）ごとに尺度表を整理させる。

「これからグループごとに尺度表（グループ用）を渡します。黒板の尺度表に貼られた1つ1つの言葉についてどこに当てはまるかを十分に話し合った上で、グループの尺度表の最も当てはまる欄に書き込みましょう。」

※ 人権への関連付けをあいまいなものにしないため、この活動には十分な時間を与える必要がある。

- ③ 次のような質問をする。
- a 「どの欄に、最も多く『言葉』が書かれましたか。また、なぜ、そうなったのでしょうか。」
- b 「声に出さずに考えてみましょう。あなた自身が使っている言葉は、どこかの欄にあるでしょうか。」
- ④ グループごとに、「極めて大きな苦痛を与える」と判断した言葉、そう判断した理由を発表させる。
- ⑤ 各グループから出された「極めて大きな苦痛を与える」言葉が、自分や他の人に対して使われたとき、どのようにすればよいかを考えさせ、グループごとに発表させる。
- ⑥ 各自、「ワークシート」に自分の考えを記入し、心を傷つけるような言葉と人権における責任とを関連付ける。

【ワークシート】

<p>大人には、人を傷つけるような言葉を止める責任があるのでしょうか。もしあるとすれば、それはなぜでしょう。</p> <p>-----</p>
<p>子どもには、自分たちの生活の中で、人を傷つけるような言葉を止める責任があるのでしょうか。もしあるとすれば、それはなぜでしょう。</p> <p>-----</p>
<p>人を傷つけるような言葉をなくすために、あなたは自分の学級の中で、どんなことができるのでしょうか。</p> <p>-----</p>

3 活動C

- ① 各自、「ふり返しシート」に記入する。
- ② 記入したことをもとに意見を交流する。

【ふり返しシート】

<p>このアクティビティを通して、どんなことを学びましたか。</p> <p>-----</p>

4 発展

- 人を傷つける言葉づかいを止めるために、自分たちにどんなことができるかについてのディスカッションをさらに深める。